

平成 20 年 1 月

年頭所感 2008: Spirit of the North

～ フロンティア精神、パイオニア精神よ、よみがえれ！ ～

日本銀行旭川事務所長
尾家 啓之

新年明けましておめでとうございます。日頃は日本銀行の政策や業務に関して、ご理解・ご協力を賜わり、誠にありがとうございます。旭川事務所としましては、本年も皆様に信頼される事務所、役に立つ事務所を目指して、所員一同邁進していく所存でありますので、引続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

早いもので、小職が旭川に着任して5ヶ月が経ちました。この間、地域の金融経済の動きを見させていただき、旭川を中心に道北各地でもいろいろな方々と出会い、語る機会がありました。こうしたことを通じて思ったことや感じたことを、年頭にあたり少し整理してみたいと思います。

旭川をはじめとした道北地域の経済は、現在、全道の平均的な姿と比較しても、さらに厳しい状況が続いています。北海道全体の景気は、全国との対比でみて最も勢いに欠けていますから、理屈の上では、現在わが国の中でも最も厳しい状況におかれている地域の一つということになります。この地域では、挨拶代わりに「景気が悪いですね」と言われることもあります。しかし、「悪い」、「悪い」と言っているだけでは生産的ではありません。むしろ、サブミナル効果とでもいうのでしょうか、何度も同じ言葉を聞くうちに実態以上にマインドが悪化してしまうリスクすらあります。そこで、一旦、当地域の原点までさかのぼり、そこに集う人たちの精神の根源に流れているものをまず再確認しておきたいと思います。そして、今なぜ景気が悪いのかといった原因を探ると共に、そうした中でも元気にうごめいている姿を幾つかご紹介したいと思います。

フロンティア精神、パイオニア精神よ、よみがえれ！

この地域に開拓の鋤が入って約 120 年が経ちます。北海道は、この間に大きな発展を遂げてきました。北海道開拓という大きなビジョンの下、それぞれ夢と志を持った人たちが全国からこの新天地に集いました。それぞれ異なる故郷・文化を持ちながら、フロンティア精神、パイオニア精神溢れる人たちが協力し、創意工夫を凝らして、辛い時代、厳しい時代を乗り越え、この地域を発展させてきました。旭川は、戦前は軍都として栄え、戦後

は物流の中継基地として大きく栄えた時代もありました。北海道開発ということで官公需に湧いた時代もありました。しかし、ここに住む人たちの原点には、こうした無から有（＝付加価値）を生み出す進取の精神（＝フロンティア精神、パイオニア精神）が DNA として今日まで脈々と受け継がれているのだということをまずもって再確認しておきたいと思えます。そして、今こそ、このフロンティア精神、パイオニア精神をよみがえらせ、新たな時代を切り拓いていく意気込みが必要だと思えます。

過度な官公需依存からの脱皮（過去の成功体験からの脱皮とリスク分散）

さて、話を現実的なところに戻しましょう。昨今の景気情勢ですが、全国的には、アジアを含めた外需に牽引されるかたちで企業部門が好調に推移し、その裾野が徐々に広がりつつある状況と考えられます。しかし、北海道、なかんずく道北地域では、そうした景気拡大の実感がありません。これには、グローバルな経済発展の恩恵を被ることができている企業が少ないことも一因ですが、当地経済停滞の最大の要因として過度な官公需依存からの脱皮が十分図られていないことがあげられると思えます。国および地方自治体の膨大な債務を背景として、予算規模が縮小していますから、公共事業の減少傾向は必然と考えておくべきでしょう。北海道開発の名の下に行われてきた公共事業が、今後、これまでと同じように増加していくと考えるのは現実的ではありません。国民経済的にも、真に止むを得ないものに限って実行されていくべきでしょう。また、官公庁における調達方式の透明性向上はさらに進んでいくでしょう。そうした前提で、官公需に過度に依存しない経営体質に一刻も早く転換していくべきだと思えます。

先にも述べましたように、当地は、古くは軍都として、そしてその後も北海道開発の名の下に多くの官公需の恩恵を被ってきました。こうした中で、規模拡大、業容拡大を図り、成功してこられた事業者も多々おられると思えます。それはそれで、時代の流れに合わせた確かな判断をされたのだと思えます。しかし、これからはそんな時代ではないでしょう。過去の成功体験をそのままこれからの時代に適用しようとしても決してうまくいかないと思えます。前例のない時代に入ったとの認識が必要です。自らの技術やスキルといった強みは、益々研ぎ澄ませていくべきですが、その力の発揮先としては民需あるいは外需に向けて、リスク分散していくべきだと思えます。

元気にうごめいているところとのコラボレーション

（旭山動物園と観光）

現在、当地域で最も元気にうごめいている筆頭は旭山動物園です。ご承知のとおり、「行動展示」というユニークな手法で、その名前は今や全国区となりました。平成 18 年度の来

園者数は 304 万人で世界の動物園の中でもかなり上位に位置していると思います。19 年度入り後 12 月末までの累計でみると 261 万人と、史上最高の前年同期をさらに上回って推移しています。ただ、今から 10 年ほど前のことではありますが、この動物園が来園者の減少から存続の危機にさらされていた事実はあまり知られていません。地元の子供達がのどかに遊ぶ程度のガラガラの動物園がなぜ復活したのか。わずか 10 名程度（当時）の飼育員と獣医さんが、140 種・800 匹の動物と真剣に向き合い、専門的な知識を活かしながらそれぞれの動物の特性・個性が最も出るような見せ方を工夫し、信念を持ってやり続けたということに尽きると思います。運営主体である旭川市の理解とバックアップがあったことも幸運だったと思います。珍しい動物は一匹もおらず、それまで大きな特色がなかった普通の動物園が、職員の創意工夫によって今日に至ったプロセスは、企業経営にとっても大変参考になると思います。

来園者数を増やすこと自体が目的ではなく、「動物達の命の輝きを一人でも多くの方に感じてほしい」とする園長さん、副園長さんの意気込みは素晴らしいと思います。自らの強みをとことん研ぎ澄まし、それを来園者の方々に分かり易く表現する。飼育員の皆さんは、動物と来園者との間のコミュニケーターの役割を担っている訳です。まだ訪れていない方は是非とも訪れていただき、動物達の生きざまを感じ取ってください。既にいらしたことがあっても混み過ぎていて旭山動物園の本当のよさが十分伝わらなかった方は、是非シーズンを変えて再度訪れていただきたいと思っています。旭川や周辺地域には、動物園以外でも知る人ぞ知る多くの観光資源や豊かな食文化があります。実際、私自身も当地に着任するまで知らなかった魅力がたくさんありました。この紙面で、細かく紹介するわけにはいきませんが、是非、十分な日程を組んで旭川や周辺地域に滞在していただき、四季折々変化に富む雄大な北の大地と食文化を体験していただければと思います。

旭川市の発表によれば、平成 19 年度上半期の当地観光入込客数は 472 万人と前年同期を 8.1% 上回り、上期としては既往最高となりました。ところが、宿泊延べ数では、前年同期比で 1 割方伸びて既往ピークを更新しているとはいえ、未だ 50 万泊にとどまっています。周辺地域も含めてまだまだ滞在型の宿泊客を増やしていく努力が必要であります。そうした中で、一つ注目すべきことは、国内からの観光客もさることながら、近年アジアを中心とした外国からの観光客が飛躍的に伸びていることです（19 年度上半期 17 千泊、前年同期比 40.8% 増）。関係各機関では、こうした動きに弾みをかけるべく精力的にご努力をされておられます。是非とも道北観光の玄関口（gateway）、ハブとして国際都市旭川を標榜していければ素晴らしいと思います。そして、そのためにも受け皿の整備（外国語対応、ホスピタリティー意識のさらなる向上、各種設備の改善等）を着実にやっていくことが必要だと思います。動物園だけで支えていく当地観光ではなく、いくつもの周辺地域・主体が協力し合い、地域全体が面として支えていく姿が望ましいと思っています。

（「北彩都あさひかわ」プロジェクト）

JR 旭川駅周辺では、鉄道の高架を行うと共に、老朽化した駅舎を全面的に改築し、周辺地域を抜本的に整備する「北彩都（きたさいと）あさひかわ」プロジェクトが進行しています。総事業費は1千億円を超える予定とのことです。全ての事業が完了するのは平成26年度の予定ですが、平成23年度には新しい駅舎が完成する見込みだそうです。計画では、とても開放感のあるモダンな駅舎になる予定です。駅周辺地域も、都市としての機能性を重視しつつ、周囲の自然環境との融合も図るとのことです。是非とも新たな旭川の顔に期待したいと思います。

（輝いている当地企業の行動特性）

当地域では、製造業のウェイトが全国対比でみて低く、なかなか特定の業種が全体を引っ張っていくという構図は取りにくいのですが、経営者や従業員が元気に輝いている企業をいくつか訪問させていただいて、共通する行動特性があると思いました。それは、卓越した技術力を活かしてひたすらいいもの作りに傾注し、いかに小さな分野でも、その中では絶対的な地位（マーケットシェア）を確立すると共に、グローバルな視点をもって顧客のニーズを徹底的に分析しつつ、常に自社の強みを客観化できている、といったところではないかと思いました。紙面では細かく紹介できませんが、日銀の企業短期経済観測調査の対象ではない先も含めて、そのような元気企業が当地域にいくつも存在しているということは申し上げておきたいと思います。そして、特に若手経営者が、業種を超えてネットワークを形成し、いろいろな悩みや苦労話を意見交換しながら切磋琢磨しています。異業種がそれぞれの立場で思うことを議論し、それが混ざり合うことで、新たなコラボレーションが生まれてくる可能性もあると思います。マクロ経済統計ではなかなか現れてこないところでも、このような動きがあるということです。そうした中で、金融の役割とは、このような芽も積極的に見出し、経営者の理念や資質を十分吟味していくと同時に、大事に育てていくという姿勢も重要ではないかと思う次第です。

おわりに ～この街、そしてこの地域のかたち～

以上、旭川地区の話が中心となりましたが、それ以外の地域でもさまざまな努力をされている姿が見て取れます。是非、旭川地区が北海道第2の都市として、道北地域全体の活性化の原動力となっていければよいと思っています。

北海道、なかんずく道北地域の強みは何と言っても「食と観光」にあります。また、旭川地区には高度な医療サービスを提供しているお医者さんの集積があります。こうした強みをコラボレートさせ、さらに強めていき、積極的に道外に向けてPRしていくことが肝心

だと思います。既にそうした動きは出始めています。やるべきことは、関係者の間では既にわかっていることばかりではないかと思います。あとは強力で推進していくのみです。

この街、そしてこの地域の将来を見据えた時、どのようなかたちを標榜していくのか、リーダーの方たちは大いに議論をされていると思いますし、これを市民や地域民とさらに共有していくことが重要だと思います。一つひとつ詳細を述べる訳にはいきませんが、「何でもチャレンジできる街」、「一生懸命やってもだめだったら、やり直せる街」、「一人ひとりが輝ける街」、「若者、女性が輝ける街」...、そんな街・地域であってほしいと思います。世界的にみて、わが国の金利はとても低い水準にとどまっています。今後金利水準を適正に調整していく合理性と必要性は十分にあるとしても、社内外を含めて、起業をするなら今がチャンスでもあります。理想と志をもった方々が、大いに羽ばたける街・地域となっていってほしいものです。そのためにも、まず私たち一人ひとりの意識から変えていこうではありませんか。Spirit of the North!